



こんぴらさんのお土産

—こんぴらさん（金刀比羅宮）の特徴的な刷り物・印刷物—

飯能市立博物館 学芸職員 村上 達哉

令和7年度特別展「レアなおふだ」。その絡みで今回は、展示図録に掲載したものの中に入らず、泣く泣く収蔵庫にしまった資料を紹介します。

加藤樹家のおふだには、香川県の有名な神社である金刀比羅宮（ことひらぐう 江戸時代では金毘羅大権現）に関するおふだがありますが、その中には厳密な意味ではおふだとは言えない刷り物や印刷物も含まれています。代表例として2つ挙げますが、一つは象の図像が刷り出され朱印で「金毘羅[]」とみえる刷り物（図1）。もう一つは、「金刀比羅神山略図」とある印刷物です（図2）。

象の図像の刷り物には「一ノ坂口 成功堂」と見え、「一ノ坂」は金刀比羅宮の参道と思われます。金刀比羅宮の公式ホームページによると、表参道から御本宮までの全785段の参道のうち、「113段目から大門までは特に急な石段となり、「一之坂」と呼ばれます。」とのことです。おそらく成功堂は「一ノ坂口」とあることから、参道の113段附近にあったのでしょうか。象の図像は、金刀比羅宮が鎮座する象頭山（ぞうずさん 別称琴平山）を指しているものと思われます。

一方、「金刀比羅神山略図」には明治39(1906)年11月13日の発行日と共に、発行者名として箸方森次の名が見えます。箸方森次の名は「香川県仲多度郡琴平町三百五番戸」の地番と共に印刷されており、琴平町の住人のようです。

「金刀比羅神山略図」でまず目を引くのは、大きな鳥居と、その前に一対ずつある狛犬と石灯籠です。参道の入口でしょう。そして山の麓から中腹に至る参道に沿って建物の屋根が連なり、中腹に境内の社殿がやや大きめに描かれています。略図は山（金刀比羅神山）とその山腹の御本宮に至る長い参道の存在を強調しており、境内の社殿配置図などではありません。そこに箸方が「金刀比羅神山略図」と題した意図が示されています。重要なのは神が鎮まる山と長い参道なのです。「いや高き神の/御稜威を仰ぐかな/ことひら山の/ことに尊き」と図の上に記した文章も、それを表したといえましょう。

この2枚は、こんぴらさんの参道沿いで発行された土産物と考えられます。加藤家のおふだには、他にも類似するこんぴらさんの刷り物があるため、社寺が発行するおふだではなくとも、一定以上の需要があったと思われます。少なくとも加藤家のおふだの中には、こんぴらさん以外にこのようなおふだに類似する土産物は見当たりません。こんぴらさんに特徴的な一品と言って良いのかもしれません。



図1 「一ノ坂口 成功堂」の刷り物



图2 「金刀比羅神山略図」